

2016 年度 在学生アンケート 結果報告【短期大学】

目次

1. 調査の概要	1
2. 本学に入学してよかったか	2
3. 導入教育科目「言語と平和」で建学の精神が理解できたか	2
4. 大学生活についての満足度	2
5. 留学について	5
6. 外国語自律学習支援室「NINJA」の利用	7
7. 学修状況	7
8. 進路・就職	8
9. 大学に対する意見	9
10. まとめ	9

1. 調査の概要

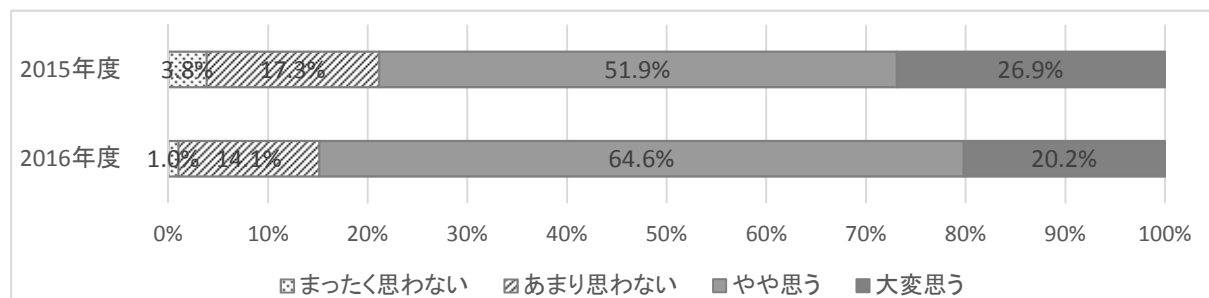
本報告は、京都外国語短期大学における 2016 年度の在学生を対象に、2016 年 4 月 5 日に行われた授業科目オリエンテーションで実施したアンケートの結果を集計したものである。調査の回収状況は下表のとおりである。

[表 1] 調査の回収状況

男子	女子	不明	合計
38(57.6%)	60(69.0%)	1	99(64.7%)

2. 本学に入学してよかったか

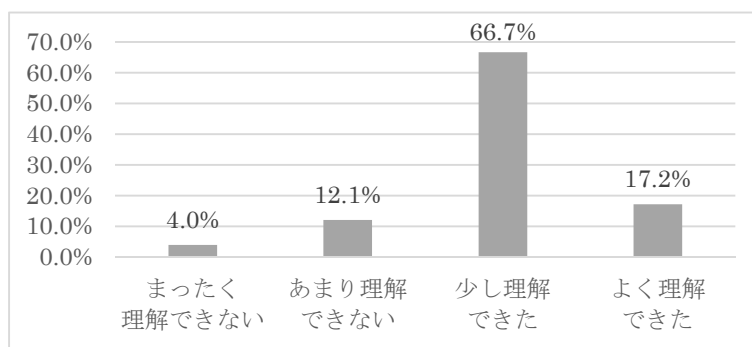
本学に入学してよかったと思うかを、「大変思う」「やや思う」「あまり思わない」「まったく思わない」から選んでもらった。「大変思う」「やや思う」と回答した学生を合わせると約 85% となり、在学生の多くが入学してよかったと思っているようである。ただし、調査の回収率が 65%程度であるため、全体の状況とは異なる可能性がある点には注意が必要である。この質問は、2015 年度に実施した同様の在学学生アンケートにも含まれているため、今年度との差を比較すると、「やや思う」は増加し「大変思う」は若干減少しているように見えるものの、統計的には有意な差とはいえない。



[図 1] 入学してよかったか

3. 導入教育科目「言語と平和」で建学の精神が理解できたか

本学では、新入生に建学の精神を理解させるために、導入教育科目として「言語と平和」という科目を設けている。この科目を通して、建学の精神である「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」のコンセプトや理念が理解できたかどうかをたずねた。約 8 割の学生は「理解できた」と回答しており、「言語と平和」の授業を通して建学の精神が学生に理解されていることがうかがえる。



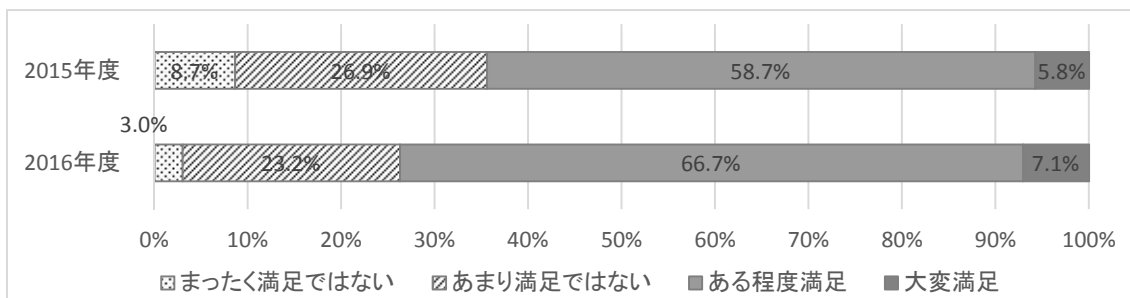
[図 2] 導入教育科目で建学の精神が理解できたか

4. 大学生活についての満足度

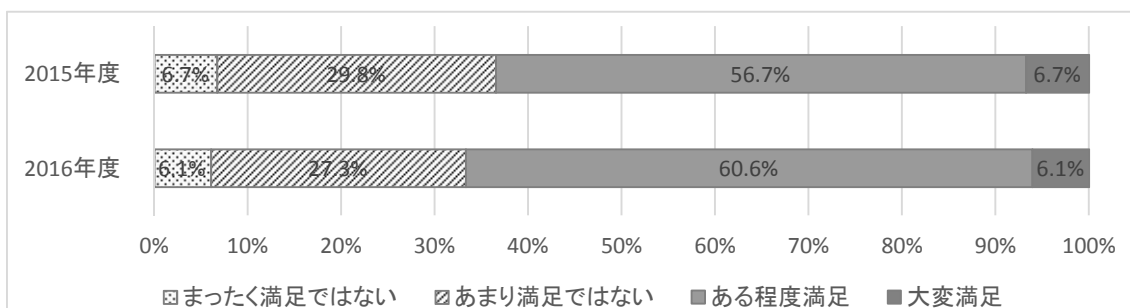
大学生活について 13 の項目を挙げ、それぞれについて「大変満足」「ある程度満足」「あまり満足ではない」「まったく満足ではない」で評定してもらった。全体としてみれば満足している学生の方が多く傾向にあるが、それぞれの項目で不満を持つ学生も一定数存在している。不満を持つ学生が半数程度いる項目が、「外国人留学生との交流」「クラブ・サークル等の課外活動への支援」「弁論大会、ナショナルウィーク等の学科行事」「大学祭・体育祭等の全学イベント」などである。

外国人留学生との交流については、京都外国語大学でも同様の不満がみられるが、やはり大学生活の中で留学生を目にする機会が比較的多いのに対して、彼らとの「交流」が少ないことが不満となっているのかもしれない。これを除けば、課外の活動について不満を持つ学生が多い傾向があるようである。

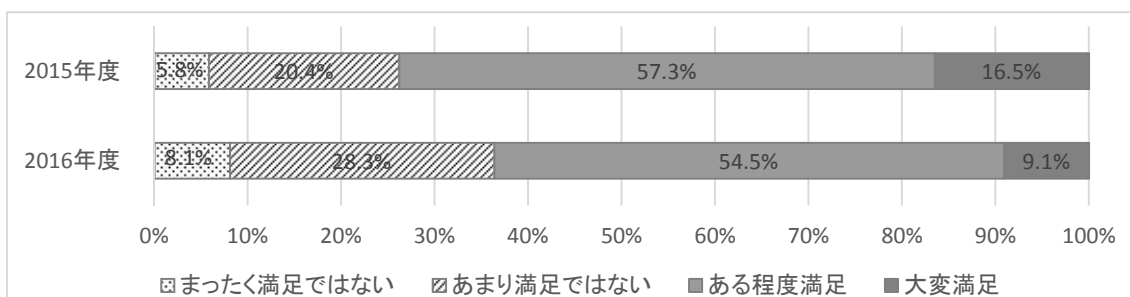
大学生活への満足度は、2015年度に実施した在学生アンケートでも同様にたずねている。それぞれの対応する項目を昨年度と比較すると、「弁論大会、ナショナルウィーク等の学科行事」「大学祭・体育祭等の全学イベント」で、回答の割合に統計的に有意な差がみられた。この2つの項目では、昨年度よりも「満足」の割合が減少しているようである。不満が高まっている原因を追究し、改善の検討が必要だろう。



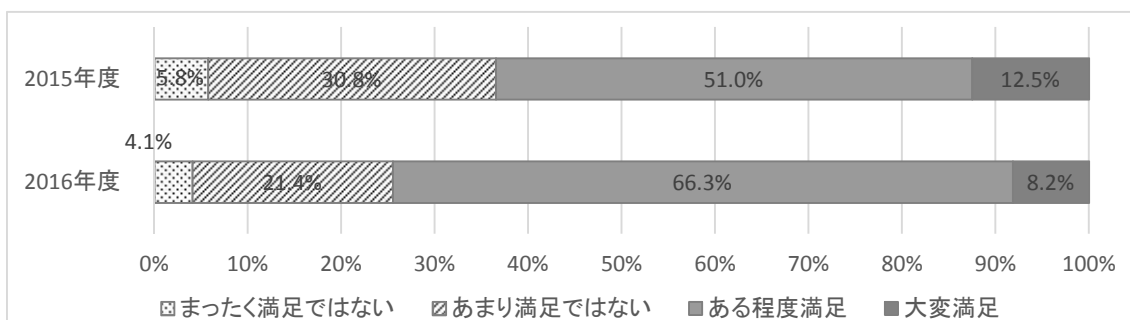
[図 3] 教員とのかかわり



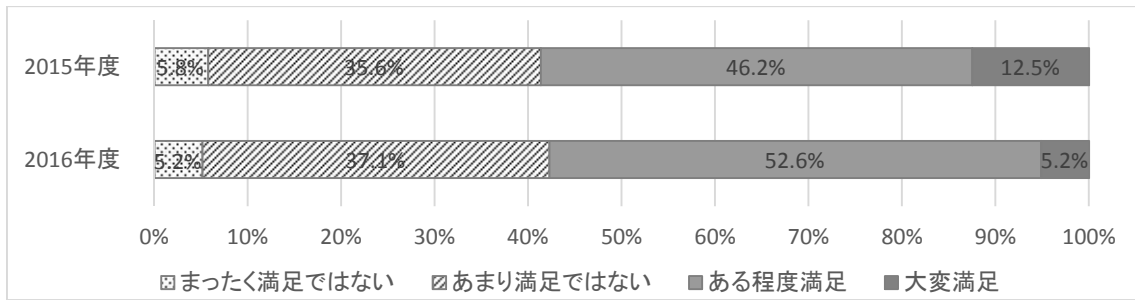
[図 4] 職員とのかかわり



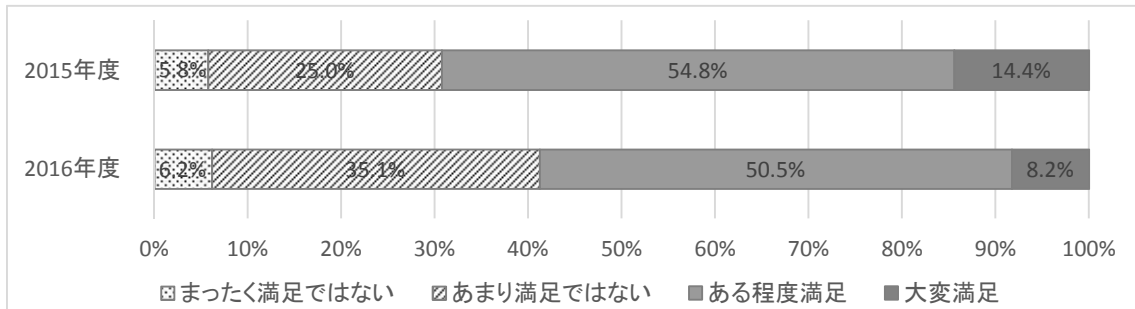
[図 5] クラス担任制(アカデミックアドバイザー制度)



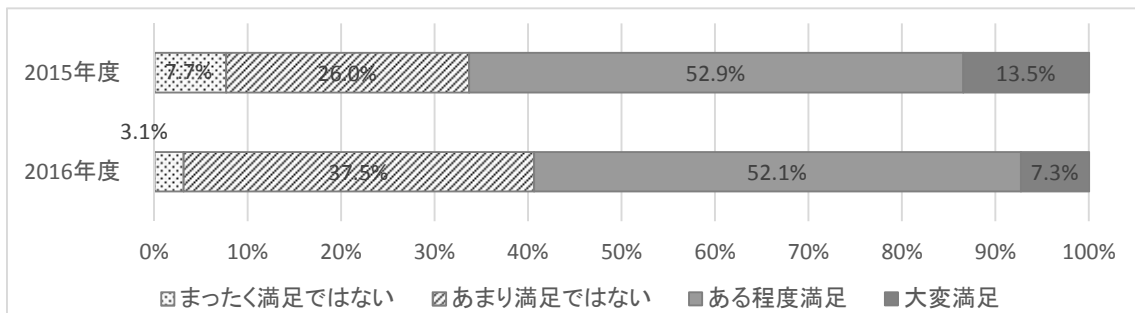
[図 6] 学業面への支援・アドバイス



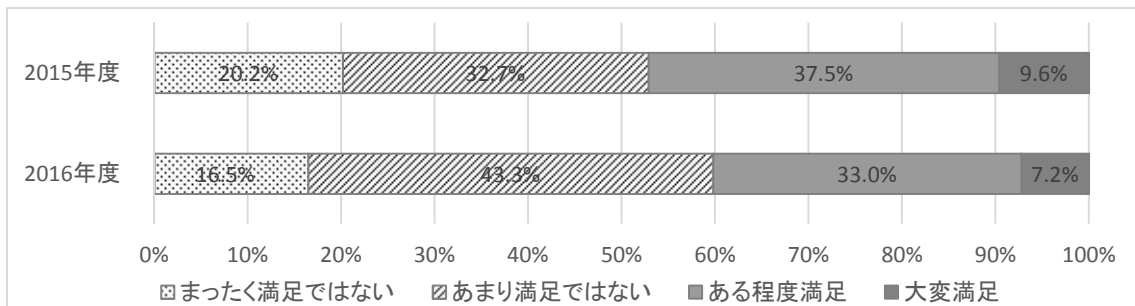
[図 7] 生活面への支援・アドバイス



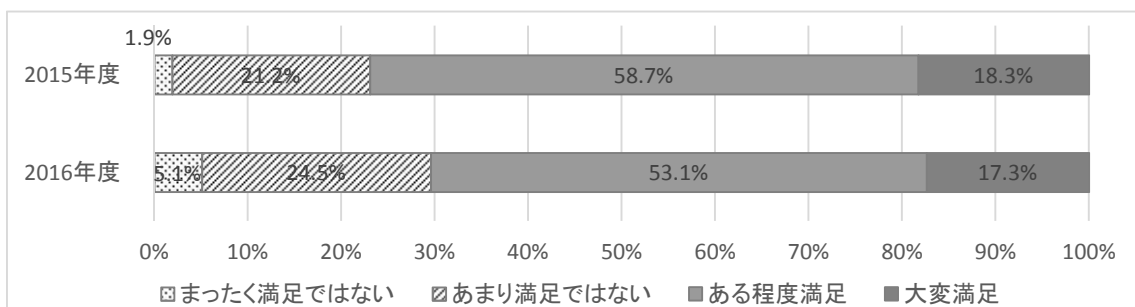
[図 8] 留学への支援・アドバイス



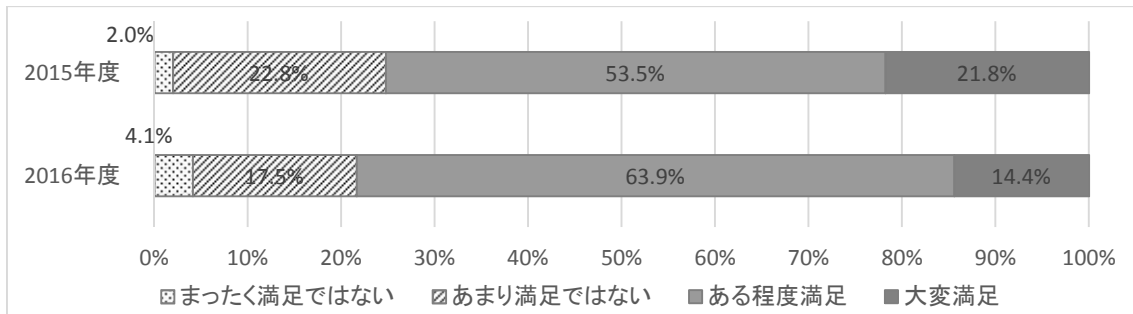
[図 9] 就職への支援・アドバイス



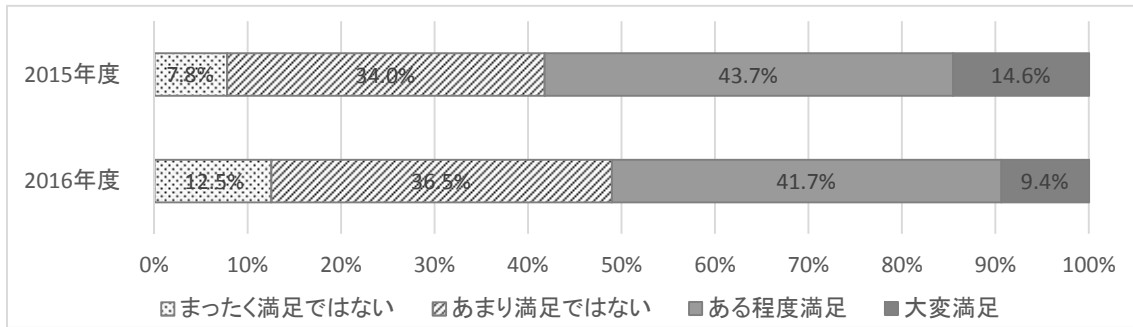
[図 10] 外国人留学生との交流



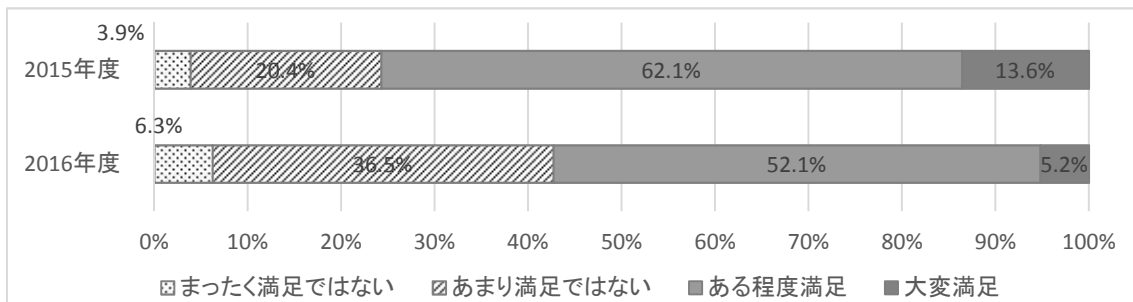
[図 11] 資格検定試験への支援



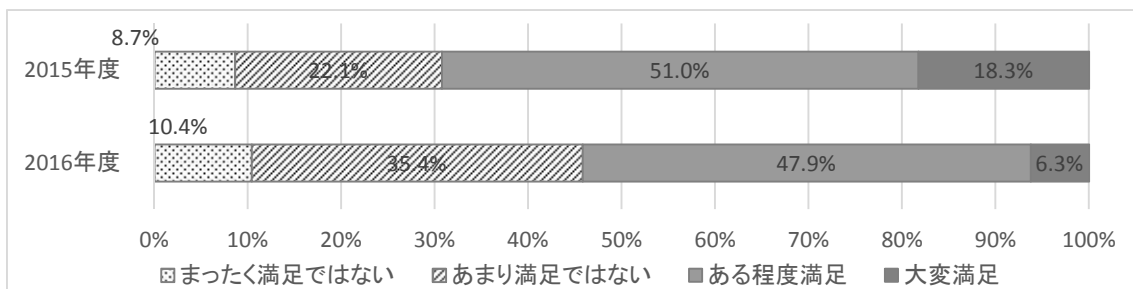
[図 12] 奨学金制度



[図 13] クラブ・サークル等の課外活動への支援



[図 14] 弁論大会、ナショナルウィーク等の学科行事



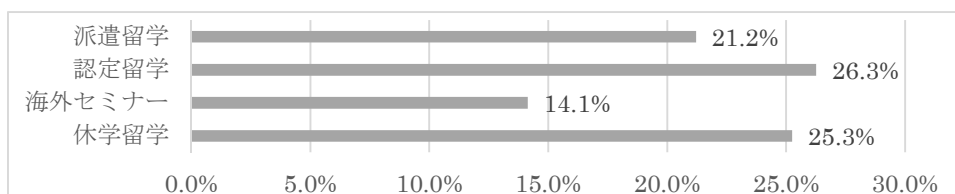
[図 15] 大学祭・体育祭等の全学イベント

5. 留学について

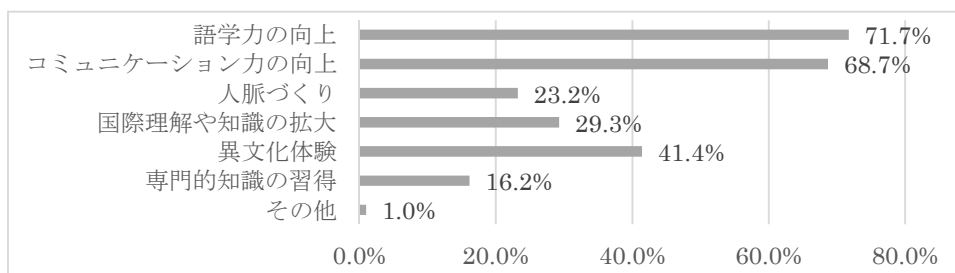
留学について、今後の留学希望の有無や留学を希望する期間、目的、留学を妨げる要因やそれに対する対応についてたずねた。ほとんどの学生が何らかの形で留学を希望しているが、海外セミナーを希望する学生はやや少ない。長期休暇を利用した海外プログラムは、短期大学の2年間を有効に活用できるため希望者が多くなるとも考えられるが、他のプログラムと比較してあまり人気がなく、理由を探る必要があるかもしれない。留学の目的は、やはり「語学力の

向上」や「コミュニケーション力の向上」が多い。

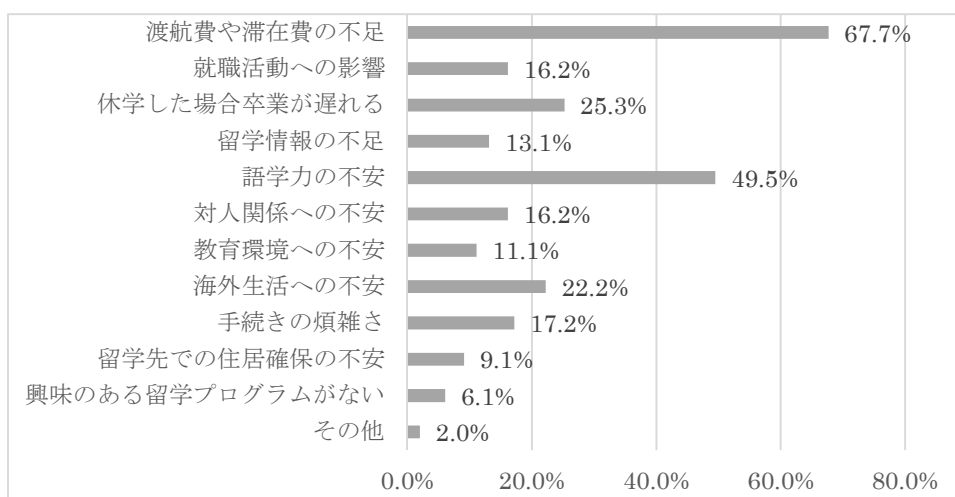
留学を阻害する要因としては「渡航費や滞在費の不足」が最も多く、経済的な理由が留学を阻害する大きな要因となっているようである。次いで言及が多いのが「語学力の不安」となっている。これらは、留学を阻害する大きな不安要素であるが、いずれも大学として対応できる余地があり、今後の改善が期待される。他方で、留学を阻害する要因に直面した場合の対応として、教職員への相談など大学の資源はあまり利用されず、自分自身で留学情報を調べることや友人への相談などが中心になっている。ここから、留学希望があるにも関わらず、何らかの障害を抱える学生に対して、適切に大学の支援が行き届いていない可能性がみえてくる。留学制度の整備と併せて、支援方法についても検討が必要だろう。



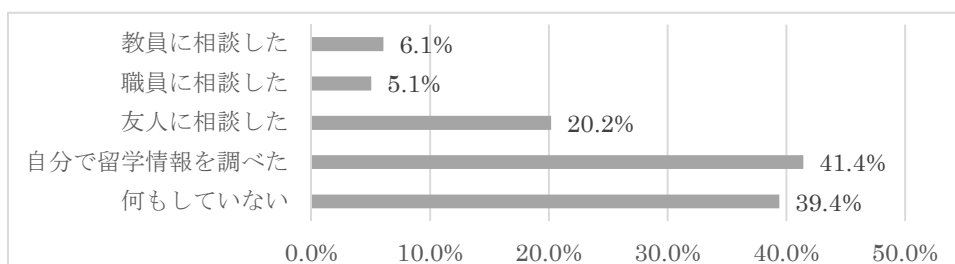
【図 16】 留学希望



【図 17】 留学の目的



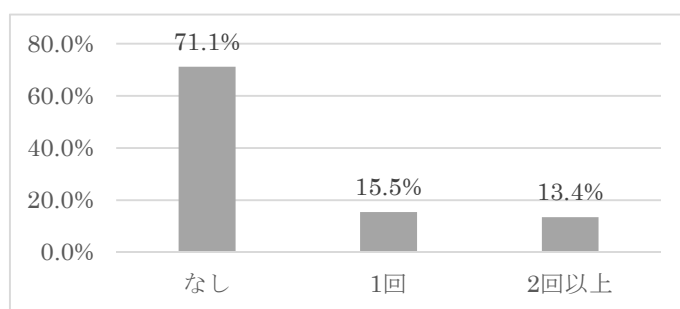
【図 18】 留学を阻害する要因



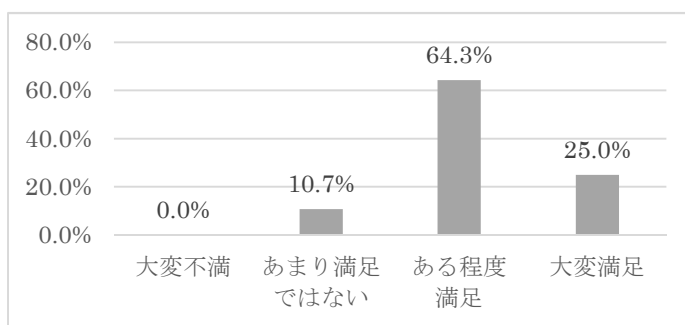
【図 19】 留学阻害要因を取り除くためにした行動

6. 外国語自律学習支援室「NINJA」の利用

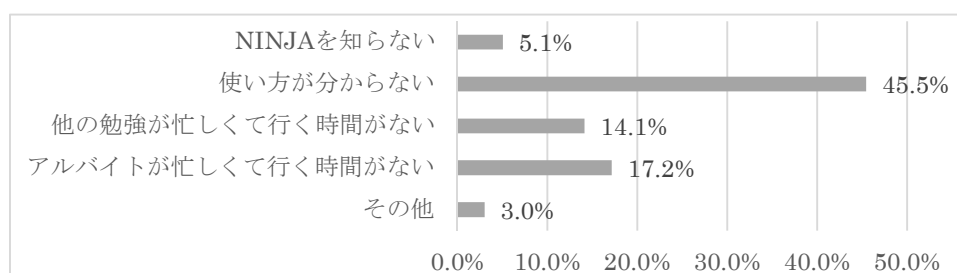
本学では、外国語自律学習支援室「NINJA」とよばれる、外国語によるコミュニケーション能力を身につける方法や技術、楽しさを学び、自律学習者を育成する施設を用意しており、様々なプログラムを利用することができる。NINJAの利用状況をたずねると、7割以上の学生が利用したことがないと回答していることから、短期大学では利用者が少ないことがわかる。NINJAを利用しない理由としては、「使い方が分からない」ことが最も大きな理由となっている。利用方法は来室した学生に丁寧に説明されているが、来室する前の学生にもさらなる使い方の周知が必要かもしれない。利用者の満足感についてみると、「ある程度満足」との回答が最も多く一定の満足は得られているようである。他方で、「大変満足」している学生は相対的に少ない点には注意が必要である。



【図 20】 NINJA の利用経験



【図 21】 NINJA の利用満足度

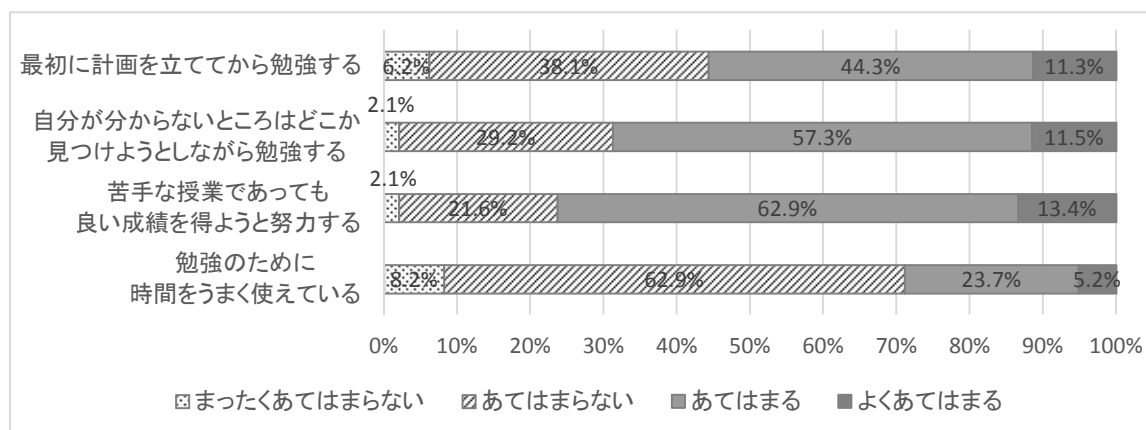


【図 22】 NINJA を利用しない理由

7. 学修状況

大学での学修状況について4つの項目を挙げ、それぞれどの程度当てはまるのか評定してもらった。回答の分布として「あてはまる」「よくあてはまる」への言及が相対的に多いのは、「2. 自分がわからないところはどこか見つけようとしながら勉強した」「3. 苦手な授業であっても良い成績を得ようと努力した」である。他方で、「1. 最初に計画を立ててから勉強した」「4. 勉強のために時間をうまく使っていた」については、「あてはまる」「よくあてはまる」への言及

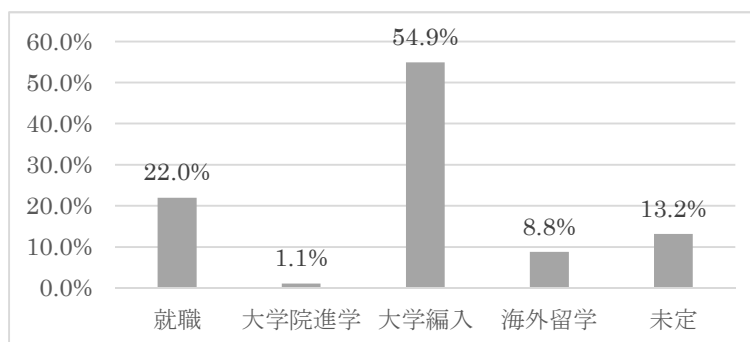
が少ない。学修の方法については比較的好ましい傾向がみられるようであるが、学修計画や特に学修時間の使い方など計画的な学修については、改善が必要かもしれない。



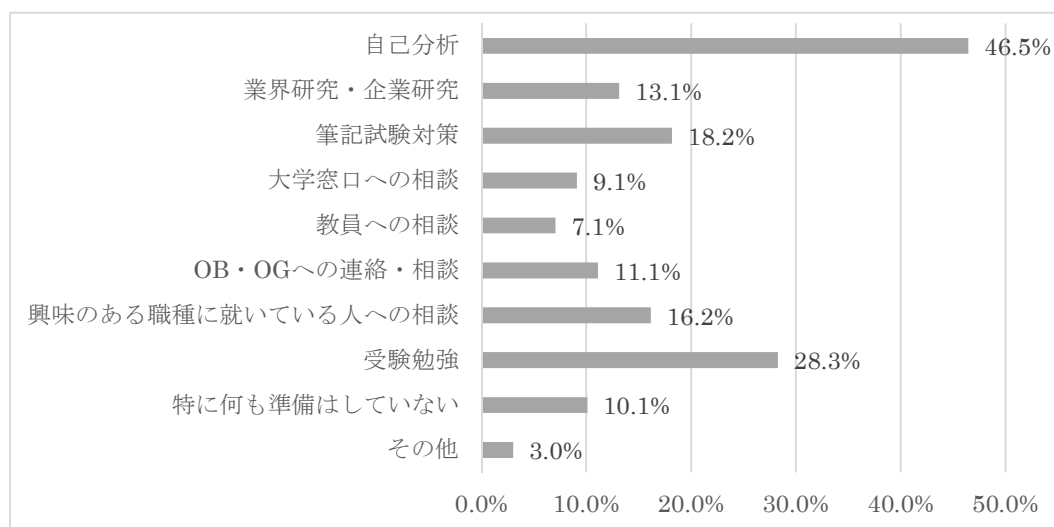
【図 23】 学修状況

8. 進路・就職

短期大学の希望進路の特徴は、大学への編入である。進路に対して取り組んでいることとしては、「自己分析」や「業界研究・企業研究」への言及が多い。「大学の窓口への相談」や「教員への相談」への言及は少なく、大学としての進路支援のあり方に課題があるかもしれない。



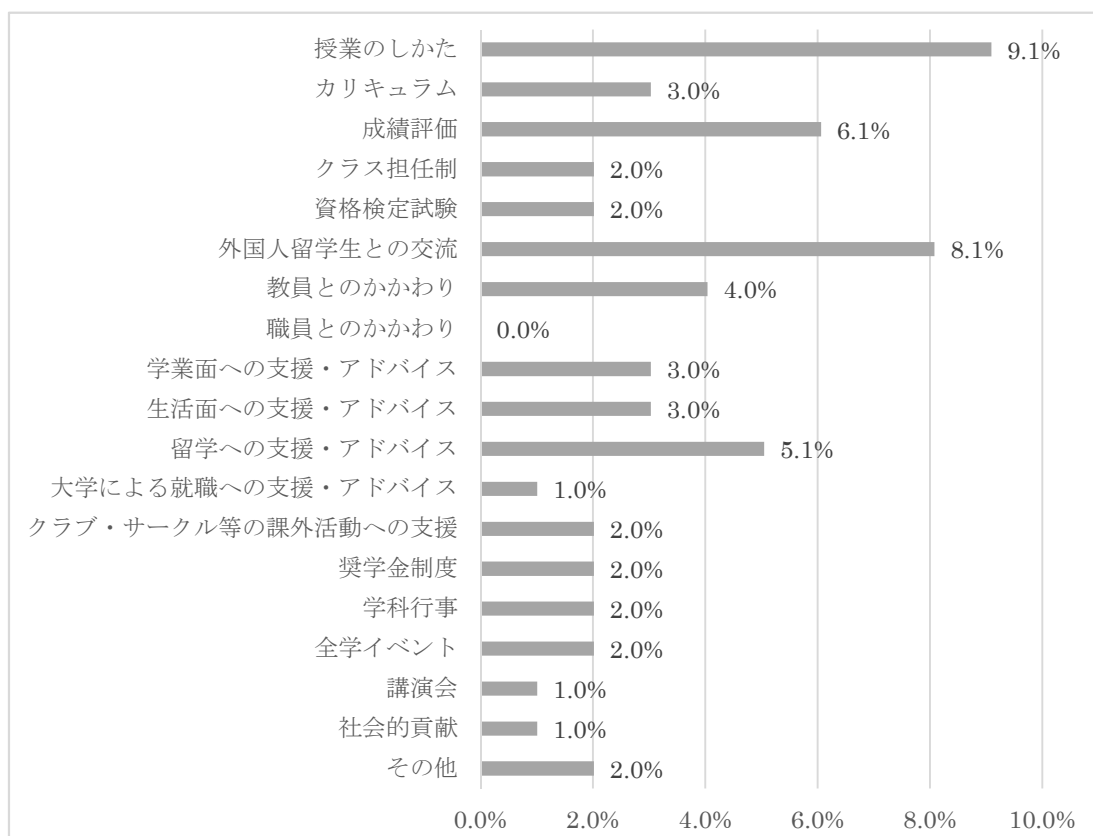
【図 24】 希望する進路



【図 25】 進路のための準備

9. 大学に対する意見

大学に対して意見がある項目を選択してもらい、選択したものについて自由に意見を記述してもらった。選択された項目にはそれぞれ意見が述べられているが、ここでは意見の数を集計する。総じて意見の数は少ないが、やや言及が多いのは「授業のしかた」「外国人留学生との交流」などである。「授業のしかた」は、大学にとって重要な点であり、意見の内容を受け止める必要があるだろう。「外国人留学生との交流」については、満足度においても他の項目より低いことから、日本人学生と留学生との交流について、何らかの期待や不満があるということだろう。



[図 26] 大学に対する意見の数

10. まとめ

本報告書では、在学生に対するアンケートの結果を集計し、彼らの大学生活における満足度や留学、学修状況、進路などについて分析を行った。大学生活に対する満足度では、多くの点で不満を感じる学生よりも、どちらかといえば満足な学生の方が多いものの、一定の不満もある。どのような不満がどのような要因で生じているのか、注意深く見る必要があるだろう。

本調査は、学生の大学生活全般について包括的に把握することを目的としているが、調査内容には不十分な点も多く今後も改善が必要である。また、回収率がさほど高くなく、回答に偏りが生じている可能性もある。授業科目オリエンテーションに出席し、調査に協力してくれる学生に対して、この調査では把握できていない学生の状況は、ここでの集計で明らかになった傾向とは異なっている可能性もある。より正確に学生の状況を把握するためには、調査の実施方法についても改善が必要だろう。